

【議事】推 8

(2) 準天頂高精度測位実験の事前評価について

事務局の瀬下参事官補佐が資料 8-2-1 (評価実施要領) を説明し、7月から8月にかけて審議した「その1」に続く「その2」の位置付けを紹介した。続いて JAXA の堀川理事が RFP を発行し応札企業の中から衛星プライムと地上系プライムを選定したことを報告した。そして、吉富室長に引き継ぎ、資料 8-2-2 (準天頂) を用いてシステム選定、基本設計要求、開発計画、リスク管理について説明した。その後下記のような活発な質疑応答が行われた。

鈴木：バスのヘリテージは何なのか。

JAXA 吉富：基本は ETS- であり、三菱電機ではスーパーバード 7 号機にも採用している物である。

鈴木：バスとミッション機器は別々に実験されるのか。熱真空試験は一緒なのか別々なのか。

JAXA 吉富：ミッション機器を個別に試験し、全体をインテグレートしてからまた試験を行う。

鈴木：コマンド系は冗長にしてあるのか。

JAXA 吉富：冗長にしてある。

廣澤：バス危機の中に経産省が開発する分があるが責任は JAXA となっている。

JAXA 吉富：全く新しいものではないことと、バス機器なのでインターフェイスを切り難いのでこのようにした。仕様書を発行し、細かいところまで指定をしている。

廣澤：経産省で開発した物を使うことと、経産省に開発させることには違いがあり、違和感があって質問した。

JAXA 吉富：開発中のデータと評価結果を入手しており、開発に問題は無いと判断した。

井口：前半で質問したかもしれないが、28 ページの体制図にプロマネの名前が無い。吉富さんがやるのか。

JAXA 堀川：JAXA 内でプロジェクト移行審査があり、そこで決定する事項である。

井口：人材は育成されているのか。

JAXA 堀川：予備設計から携わってきた者を充て、更に人材を補強する予定である。

井口：多くの省庁が絡むプロジェクトであり、全体が一丸となって取り組むことが大切である。委員の先生方に聞いて頂きたいのであるが、今まで色々な不具合を経験してきたのであるが、原因は体制にあった。責任のある人が権限を持っていたかということである。開発を始めてしまってから、**比推力が足りないとか、エンジン重量が重いとか...**¹ これからそこを見ていただきたいというお願いである。

鈴木：この衛星については皆さんが経験を有する。上がきちっとすれば皆ついて来る。

¹ 1 番目の議題が終わり、説明者は全員退席してしまった所で、このような発言をして良いのであろうか。返答が出来る人は一人も残っていないのである。何を望んでいる発言なのか想像することができない。

青江：これは言えますか？ 研究開発を JAXA がやってきた。
システムは新衛星システムがやってきて、突然 4 月から
JAXA がやれということになった。此処に危惧がある
ということはないのですか。

鈴木：ETS- をベースということなので心配することは無いで
しょう。

JAXA 堀川：突然というのはちょっと違うが、経験のある人を
当てていく。

廣澤：他省庁が絡む中で、JAXA の指導力に依存する部分が大き
い。しっかり取り組んでいただきたい。

奈良：利用について、新しい民間の団体を作る調整が行われて
いる。

廣澤：大きな L バンドのアンテナを使うが、開発課題は無いの
か。

JAXA 吉富：アンテナに関し普段からお世話になり有難うござ
います。薄いヘリカルアンテナであり、難しかったが、
先行して研究開発を行ってきて、現在、筑波で試験を行
っている

廣澤：ハイパワーなので熱の問題も大切である。

JAXA 吉富：確認しながら開発しています。有難うございます。